令和2年度 第2回 健康づくり推進協議会 議事概要（確定版）

開催日時	令和2年12月18日(金) 15:00 ～ 17:00
会場	万代シルバーホテル5階 昭和の間
出席委員	飯濱委員、上村委員、神田委員代理、佐藤委員、土田委員、 藤井委員、本間委員、山口委員、山崎委員〔五十音順〕
議題	
	<p>1. 令和2年度上期保健事業実施結果と令和2年度下期保健事業の取り組みについて</p> <p>2. 令和3年度保健事業計画について</p>
議事概要	
	<p>議題1. 令和2年度上期保健事業実施結果と令和2年度下期保健事業の取り組みについて</p> <p>議題2. 令和3年度保健事業計画について</p> <p>報告事項. 令和2年度新潟支部重点広報事業について</p> <p>○資料に基づき説明</p> <p>～ 意見交換 ～</p> <p>■新型コロナウイルス禍での健診・医療機関の受診率について</p> <p>【保健医療関係者】</p> <p>健診の受診率に関しては、健診実施機関が健診を中止延期したことや人数を制限したことにより、申し込んでも受けられないという状況が長く続いた。例年では今頃は健診が終わっている頃だが、いまだに実施している状況。トータルとしては2割から3割、総受診者は減ると全国的に予想される。</p> <p>問題は生活習慣病予防健診であり、1年遅れると手遅れになる方は案外多く、生活習慣病で亡くなる方や、がんで亡くなる方が数千人増えるだろうという予想が出ており、非常に危惧されている。そのため、今協会で行っている重症化などの勧奨を必要とする方をしっかり受診へつなげていただきたい。また、去年受診勧奨しても受診しておらず、今年も受診しなかった方々は非常に危険なので、きちんと受診状況を把握できるかどうか重要である。</p> <p>【保健医療関係者】</p> <p>医療機関の受診率も明らかに減っており、特に小児科は顕著。また、接触の機会が減少したため、感染症の罹患も減少している。本来、手足口病など、小さいうちにかからなくてはいけない病気にかからなくなっている。大人になってからかかると重症化するおそれがあるので将来に向けて心配なことではあるが、受診控えによって医療費は確実に下がるという状況である。</p>

■新型コロナウイルスに罹患した場合の重症化について

【学識経験者】

基礎疾患を持っている方がコロナに罹患した場合、重症化するのか。

【保健医療関係者】

重症化しやすい方は生活習慣病を持っているからではなく、そのリスクコントロールが悪いため。闘病になってもリスクコントロールされている方はそれほど重症化するリスクは高くない。また、喫煙者が一番重症化の可能性が高いが、コロナ禍でも禁煙したいという人がほとんどいない。メディアも喫煙のリスクをもっと発信してほしい。

■特定保健指導について

【事業主代表①】

今回協会の特定保健指導の対象になったのが弊社では私ともう1名だった。私も多少運動をしていたが、さらに保健指導の中で様々な話を聞くことができ、実生活に役立てた。もう1名は保健指導の結果、運動をし始めた。今回協会に保健指導をしていただいたことで次につながっていくと思った。ありがとうございました。

【学識経験者】

コロナの関係で、運動施設の閉鎖等、運動できる機会が制限されてしまうので、運動することもなかなか難しいと感じている。

■新型コロナウイルスに罹患した場合の治療費について

【被保険者代表①】

新型コロナウイルスの治療費について、協会けんぽで負担する制度的な仕組みを教えてください。

《事務局》

感染症の法律に基づき、3割は公費で負担、残りの7割は協会けんぽから医療費で負担される。

■緊急事態宣言解除以降の健診などの動向について

【学識経験者】

緊急事態宣言解除以降の健診等の動向について教えてください。

《事務局》

健診については、緊急事態宣言中受診していなかった対象者が受けられるように、健診機関側で普段実施していないお盆の期間や、土日など、会場日数を増やして対応していただいた結果、例年とおりの受診者数は見込められる。

特定保健指導については、6月から案内を再開したが、新型コロナウイルスの影響で健康に不安があるためなのか、特定保健指導の実施率が例年より増加したことがあった。

また、医療給付については、レセプトの請求が4月、5月、6月分は前年より低く、7月分以降少しずつ前年に

近づき、10月分の請求は前年より若干増えている状況。

【保健医療関係者】

新潟県の健診は冬になる前に済ませてしまう対象者が多く、健診で要治療等に該当した方が医療機関に受診を勧められて受診しているが、今年はコロナ禍のため健診が遅れて実施されているので、この後例年より受診者が少し伸びてくると予想され、トータルで全国平均より少しが上がるかと予想される。また、新潟は人口当たりの感染者数は全国的に少なく、重症化の数も少ないので、今のところ医療費全体に対してコロナの影響で医療費全体が押し上がるということは恐らくないだろうと予想している。

■ICTを活用した特定保健指導について

【学識経験者】

テレワークの環境が整備されたりとオンライン化が進む中、オンラインで特定保健指導は受けられるか。

《事務局》

委託民間業者では ICT遠隔の保健指導を開始しており、数件実施報告は来ている。健診機関で開始したところは1、2件ほど。また、実際に行くと、タイムラグが発生したり、対象者の健診結果の共有が難しかったりと、問題点がある。協会ではシステム環境は整っているが、マニュアル等がないため、次年度以降に実施できるよう環境を整えたい。ただし、新潟県内で遠隔での保健指導を希望される方がほとんどいない状況のため、東京などと比較すると対面での保健指導を希望される方が現状では多い。

【学識経験者】

Web でこちらから様々な情報を発信するだけだと、それほどの設備がなくても実施できるため、戦略的に協会けんぽ主導で発信していただけるよう検討していただきたい。

■健診控えや広報について

【行政関係①】

県でも健診控えが問題であると考えており、その対策として、新潟駅のディスプレイ広告やリーフレット等を使って健診機関では感染対策を万全に実施していることを周知し、安全に健診を受けられるよう広報することで、健診控えがなくなるような取り組みをしている。

【行政関係②】

市民に対してLINEを活用して、医師会、歯科医師会、薬剤師会から睡眠の話や薬の飲み方の話などの情報発信を週に何回か日替わりで行っている。今、数百人の登録があり、動画での再生も行っている。

また、医療費の関係では国保でも3月、4月、5月は1割～1.5割減になっている。6月はその反動で前年同期よりも増えているような状況で、10月は昨年と同じぐらいの状況。外来や歯科等の件数の落ち込みが大きい。

【行政関係①】

がん検診について、新潟県内では市町村のがん検診でがんが見つかる方が年間約1,500人。コロナの影響

響から健診未受診者が2割なので、「年間約300人ががんの発見が見逃されている」と具体的な数字を出してがん検診の受診促進の広報を実施している。

■集団健診・予約サービス・各種予防接種について

【被保険者代表②】

協会主催の集団健診の案内について、実施方法を教えていただきたい。

《事務局》

集団健診については、新潟市の集団健診と新潟市以外の地域の集団健診と大きく分けて2種類ある。

新潟市主催による集団健診の実施がないため、例年協会と新潟市の区の担当と保健所で打ち合わせを行い、特定健診と乳がん検診を同時に受けられる会場を年間何日か設けて健診機関に委託して実施をしている。

新潟市以外の地域は、特定健診のみになるが、県内の各地で日程を組んで集団健診の会場を設けて案内をしている。

いずれも今年度、まだ特定健診を受けていない被扶養者のデータを抽出し、各住所地の近隣の会場のチラシを作って案内をしている。

【被保険者代表②】

健診の予約サイトに各健診機関のコロナ対策を掲載すると対象者は安心して受けられるのではないかと。

《事務局》

予約サイトについては、運営管理を民間委託しており、フォーマットもその運営管理委託業者のものを使用しているため、支部独自で追加・変更することができない。ただし、健診機関のコロナ対応の一覧を作成して、支部のホームページ上にアップすることはできるかもしれないので検討させていただく。

【被保険者代表②】

コロナの影響から外出を控える傾向が強いが、小児科のワクチン接種やインフルエンザの予防接種についても何か影響はあるかと。

【保健医療関係者】

小児科ワクチンは、定期接種のワクチン、日本脳炎や破傷風などは各家庭内にかなり浸透しているため、それらの接種率はそこまで下がらないと予想される。

インフルエンザの予防接種率は昨年より上がっている。

■ジェネリック医薬品について

【保健医療関係者】

インセンティブ制度のジェネリック医薬品について、新潟県が10位ということで、確かに医療費が安くなることはいい。大手のメーカーが作っているものや、もともとのオリジナルを作っているメーカーがジェネリックを作っているところは安心だが、睡眠薬の死亡事故の例もあり、医師の間ではジェネリックに対する不信感を持っている

方がいる。ジェネリックの質の担保というのは国がしているというが、実は国はあまりチェックしていない。そのため、協会けんぽで製造メーカーの推奨や、ジェネリックの会社の評価や検証などを保険者として何かできないか。

《事務局》

今回の死亡事故の例もあり、本部のほうには提案という形で上げさせていただきたい。

ジェネリック医薬品についての協会です新しく始めた取り組みとして、先発医薬品とジェネリックが両方ある薬で、その地域でAという先発医薬品、B、C、D、といったジェネリック医薬品がどのくらい使われているかを一覧表にしたものをホームページ上で公開し、医師会や各診療所、病院にもホームページに公開した旨を案内した。

■特定保健指導について

【事業主代表①】

インセンティブの中に特定保健指導の実施率とあるが、企業が受け入れを行った場合でも、実施率に反映されるのは本人の面談だけなのか。

《事務局》

実施率は受けた対象者本人の人数が反映される。ただし、受け入れていただくのは事業所のため、なるべく対象者の多い事業所に勧奨して、たくさんの方にお受けいただけるような工夫をしている。

【事業主代表①】

実際に特定保健指導を受けた所感として、非常に勉強になると思った。さらに、事業主の理解を得ることも大切だと思った。対象となる個人以外の、例えば経営者にも特定保健指導について話をするなどの取り組みでPRするのはいかがか。本人のためにも当然なること。私も知り合いで特定保健指導の対象になりそうな方がいれば、ぜひ広報したいと思った。そういった地道な取り組みがどんどん広がっていけばいいと思った。

■その他

【事業主代表②】

いつも商工会の集団健診のチラシを見て健診を受診している。今回受けた感想として、健診会場が三密であったと感じた。具体的には、椅子が隣と密着していた場所がいくつかあった。また、会場が小さく、2日間の集団健診日程で、胃がん検診も午前中のみのため、朝からずっと込み合っていた。

【保健医療関係者】

PCR検査について、補助を出す市区町村が増えてきており、新潟県の全市町村も65歳以上のPCR検査希望者、症状がない人も、希望すれば半額もしくは上限1万ほどの金額でPCR検査受けられる。また、業務上必要とされたPCR検査に関して補助を出す市町村も増えてきているので、例えば、コロナの関係で対象者が特定保健指導を敬遠する場合、特定保健指導を実施する保健師等がPCR検査を定期的に受けるというのも受診者の安全・安心につながるので検討いただきたい。

特 記 事 項	
次回は令和3年6月開催予定	